



発行日：平成 25 年 9 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 13 回海部会 WG を開催しました！

9 月 27 日に第 13 回海部会 WG を開催し、矢作川左岸 14.5k 付近でのごみ・流木調査本調査を実施しました。

9 月中旬の台風に伴う出水により、河川敷に堆積したごみ・流木の調査を行い、その後、調査結果について話し合いました。

日時：H25 年 9 月 27 日(金) 10:20～11:30
場所：矢作川左岸 14.5k 付近
参加者：9 名（事務局含む）



◆主な活動・会議内容

1：矢作川左岸 14.5k 付近にて、ごみ・流木調査本調査を行いました



矢作川左岸 14.5k 付近にて、ごみ・流木調査本調査を行いました。流木、人由来ごみの 2 種類の調査について、メンバーで話し合いながら実施しました。



大量に堆積したごみ・流木 10m 四方範囲を調査します



流木の種類をチェック



人由来ごみを集めます



種別に分類

※調査結果は裏面に記載しています。

2：その場でふりかえりを行いました



本調査後、その場でふりかえりを行いました。よかったこと、悪かったこと、ごみ・流木調査の改善提案、佐久島での調査（第 10 回 WG）との違いについて意見交換をしました。

【主な内容】

- 出水によって発生するごみを、実際に確認できてよかった。
- 海部会のメンバーでは、流木の樹種が判断できなかったため、山部会の人や木の専門家がいるとよかった。
- 堆積物にはヨシが非常に多かったが、ヨシは流れ着いた後も生物の棲み家となるなど、生態系の中では重要な役割を担っているため、ごみとして扱うのかを考えていく必要がある。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。











◆本調査結果

- 10m 四方内の流木の割合は、山発生のもの4%、川発生のもの6%、川発生のみ90%であった。
- 10m 四方内の人由来ごみは、20L ゴミ袋3袋分（ランク4~5）で、内訳は以下ようになった。

<流木の状況>

A. 漂着物の状況 (時間経過)	1	樹皮、枝葉が確認され、漂流後間もないもの	有
	2	樹皮等は確認されず、時間をかけて漂流したもの	有(1週間程度)
B. 人工林・自然林、 その他の別	1	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた樹形のまっすぐな人工林	有(スギ)
	2	まっすぐな樹形かつ切断面が明確な間伐木	有(ヒノキ)
	3	切断面は明確だが、まっすぐでない人工林以外のもの	無
	4	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた灌木等	有
	5	その他()	

<人由来のごみの状況>

写真	       
種類	<p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器・トレー、紙パック、ふた、キャップ、袋類（農業用以外）、飲料缶、飲料ガラス瓶、ライター、その他生活系</p> <p>【事業系ごみ】木材等、苗木ポット、農薬、肥料袋</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、ガラスや陶器片、発泡スチロール片、金属片、シート、袋の破片</p> <p>【上記以外】タイヤ、スプレー缶、固形燃料</p>
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの次に発砲スチロール類が多い。 ・人由来のごみは、佐久島でのプレ調査時と概ね共通していた。 ・風の影響など、捨てようと思って捨てたごみ以外のものが、ごみになっている可能性がある。ごみの発生源、発生要因を考えることが必要である。

◆話し合いでの主な意見

① よかったこと

- ・ 出水によってどのようなごみ出るのか実感できた。
- ・ 実際のごみを見ることができてよかった。

② 悪かったこと

- ・ 流木の樹種の判別には、樹木の専門家（山部会の人）がいればよかった。

③ ごみ・流木調査の改善提案など

- ・ 樹種を掲載している参考資料は、流木と成木、両方の写真が必要である。
- ・ 今回のごみはヨシが非常に多かったが、ヨシはごみとなった後も生き物の住処になっており、生態系の中では重要な役割を担っている。そのため、ヨシを一概にごみと扱っていいものかどうかを考えていく必要がある。
- ・ 自然由来のごみと人由来のごみでは、ごみとしての寿命が違う。自然由来のごみは半年もすれば分解等によりなくなってしまうが、人由来のごみはいつまでも無くならない。
- ・ 流木は、海では漁業の邪魔になりごみになるが、川では生き物の棲み家である。ごみの扱いについては、どこで不都合が生じているのかを考えて、判断すべき。
- ・ 昔は、のりの養殖を行っていたため、ヨシなどの流出も問題になっていた。現在では、のり養殖も減っているため、実情は違うかもしれない。
- ・ 今後、生活系のごみを減量しなければならないと感じた。
- ・ ペットボトルなどの人由来のごみの発生要因を明らかにする必要がある。捨てようと思って捨てたごみもあるが、そうでないものもあるのではないかと。そうであれば、対策方法も変わってくる。

④ 佐久島での調査（第10回WG）との違い

- ・ 出水によってどのようなごみ出るのか実感できた。
- ・ 自然由来のごみとして、佐久島はアマモが多かったが、矢作川ではヨシが多かった。

今後のスケジュール（予定）



次回 海部会第14回WGを10月7日（月）に開催します

矢作川左岸0.6km付近の河口干潟にて、干潟生物調査を行い、海の将来像について話し合う予定です。

